

白神山地における森林環境教育の新たな取組と子ども達の現状

東北森林管理局藤里森林センター 安田大地

1 はじめに

藤里森林センターは、白神山地世界遺産地域及び周辺地域における保全管理、森林・林業の普及啓発、国民参加の森林づくりの推進等を目的として、平成7年3月に発足しました。今年度で設立15年目を迎えた当センターは、その設立趣旨を再認識し、組織としての認知度・存在感の向上、白神山地を守る次代の育成、バリアフリー道等を活用した裾野の広い利用者の受け入れ等により、白神山地における「調べ」「学び」「教える」ネイチャースクールを目指すという方針を打ち出しました。この一環として、今年度は、従来から行ってきた『森林ふれあい推進事業』と『森林教室』を拡充し、新たに『白神ジュニアフォレスター』、『特別支援学校を対象とした森林教室』、『白神森林講座』を計画しました。この中で『白神ジュニアフォレスター』は、地元広報誌や新聞等を媒体として募集を行ないましたが、応募がなく、今年度は実施することができませんでした。

来年度において当事業を成功させるためには、応募がなかった原因を応募者側の事情から理解し、その上で改善策を講じることが必要と考え、秋田県北地域の小学校にアンケートを依頼し、調査を行いました。

2 『白神ジュニアフォレスター』について

『白神ジュニアフォレスター』は、二ツ森や岳岱自然観察教育林、田苗代湿原等を活動地域として、現地で当センター職員と一緒に森林パトロールや登山道の清掃と合わせて森林の働きや林業の大切さを学んでもらい、白神山地の将来を担う地域の子ども達を育成していくという事業です。

今年度の募集日程は7月24日（土）、8月28日（土）、9月25日（土）の全3回、対象地域は能代山本地域（藤里町、能代市、八峰町）、対象学年は小学4～6年生、人数は5名としました（表1）。募集広告は3市町の広報誌と藤里新聞に掲載していただき、当センター近隣の藤里小学校には対象学年の児童一人一人に先生経由で直接プリントを配布して頂きました。しかし、締め切り日までに応募がありませんでした。

そのため、募集日程を8月28日（土）、9月23日（祝）の全1回×2、対象地域を限定無し、対象学年を小学3年生～中学生に変更し、再募集を行いました。募集広告は秋田魁新報、北羽新報に掲載していただいたほか、東北森林管理局メールマガジンや当センターホームページにも掲載しました。しかし、募集条件の改善後も応募はありませんでした。

表1. 募集条件

	当初の募集	再募集
実施日	7月24日(土) 8月28日(土) 9月25日(土)	8月28日(土) 9月23日(木、祝)
回数	全3回	全1回×2
対象地域	能代山本地域 (藤里町、能代市、八峰町)	限定無し
対象学年	小学4～6年生	小学3年生～中学3年生
人数	5名	
参加費	無料	
募集広告	3市町広報 藤里新聞 プリント配布(藤里小のみ)	北羽新報 秋田魁新報 当センターホームページ 森林管理局メールマガジン

3 調査方法

アンケートは、能代山本地域内3市町にある小学校からそれぞれ1校ずつ、大館北秋地域にある小学校から2校を選び、計5校に対して配布しました(図1)。配布した学年は当初の募集対象学年である4年～6年生、記入は保護者にしてもらった形式としました。集計は小学校ごとに行い、無回答も集計しました。

設問は『白神ジュニアフォレスター』の認知度、小学生を取り巻く状況、森林環境教育に対するニーズ等を把握できるように作成しました。設問は全9問の多岐選択式で、最後に自由記述欄を設けました。なお、選択肢によって次に回答する設問を指定する形式としました(図2)。設問は以下の通りです。

- ◇差し支えなければ、お子様の学年と性別を教えてください
- ◇『白神ジュニアフォレスター』の内容および募集があったことを知っていましたか
- ◇『白神ジュニアフォレスター』の情報は何かから知りましたか(複数回答)
- ◇応募しなかった理由をお聞かせください(複数回答)
- ◇今後、『白神ジュニアフォレスター』に参加したいですか
- ◇参加したくない理由をお聞かせください(複数回答)
- ◇開催時期はいつがいいですか(複数回答)
- ◇開催場所や集合場所はどこがいいですか(複数回答)
- ◇どのようなイベントなら参加したいと思いますか(複数回答)

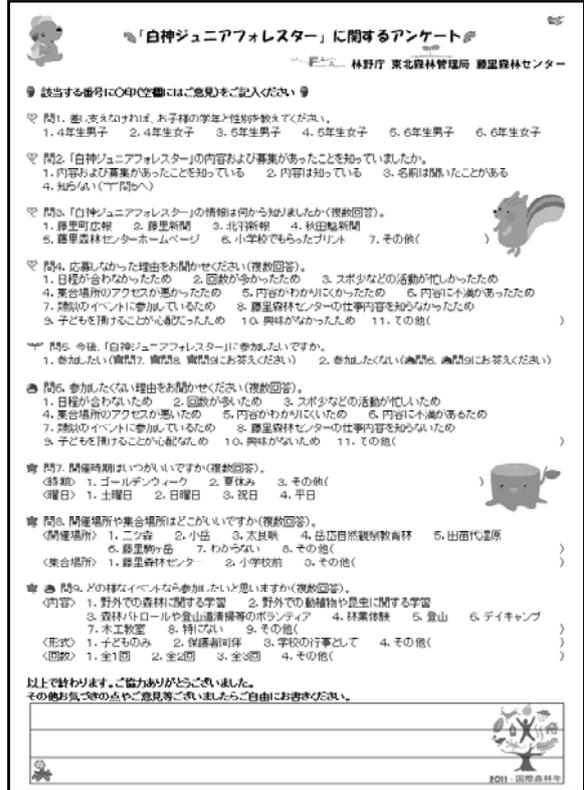


図1. 配布したアンケート用紙

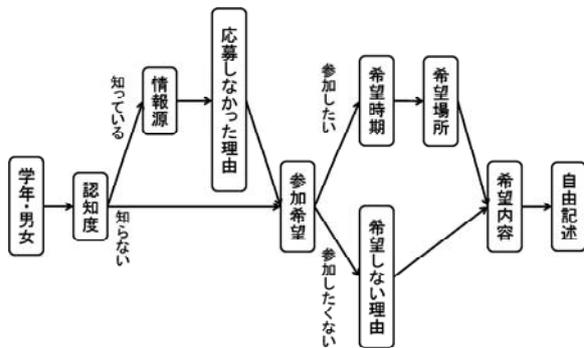


図2. アンケート回答のフローチャート

4 結果

5校合わせたアンケートの配布人数は521人、回答人数は303人で回収率は58%でした。次に主な結果を紹介します。

- (1) 『白神ジュニアフォレスター』の内容および募集があったことを知っていましたか
「知らない」が81%、「知っている」が19%でした。
プリントを直接配布した藤里小学校を分けて集計すると、「知っている」は藤里小

は45%、藤里小以外の4校は14%でした（図3-1）。

(2) 情報は何かから知りましたか

「小学校でもらったプリント」が40%「市町広報」が32%、新聞等が11%でした。「センターホームページ」は1%で、イベントを知るきっかけとはなりにくいことがわかりました。

プリントを直接配布した藤里小学校を除いて集計すると、「市町広報」は51%となり、知っていた人の中では重要な情報源となっていたことがわかりました（図3-2）。

(3) 応募しなかった理由をお聞かせください

「スポ少などの活動が忙しかったため」が38%、「日程が合わなかったため」が27%と、三分の二が日程的な理由であることがわかりました（図3-3）。

「興味がなかったため」は13%でした。

(4) 今後、『白神ジュニアフォレスター』に参加したいですか

「参加したくない」が77%、「参加したい」は17%でした。

(5) 開催時期はいつがいいですか

[時期]については、「夏休み」が70%でした。

[曜日]については、土曜日、日曜日、平日がほぼ同じ結果となりました。

(6) どの様なイベントなら参加したいと思いますか

[内容]については、「野外での動植物や昆虫に関する学習」が25%、「野外での森林に関する学習」が18%、「木工教室」が14%でした（図3-4）。『白神ジュニアフォレスター』の主題である「森林パトロールや登山道清掃等のボランティア」は8%であり、保護者のニーズとの乖離がみられました。

[形式]については、「子どものみ」が44%、「学校の行事として」が24%、「保護者

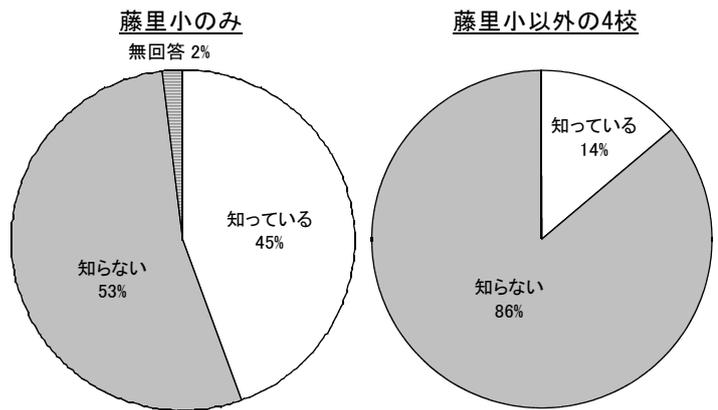


図3-1. 内容および募集があったことを知っていましたか

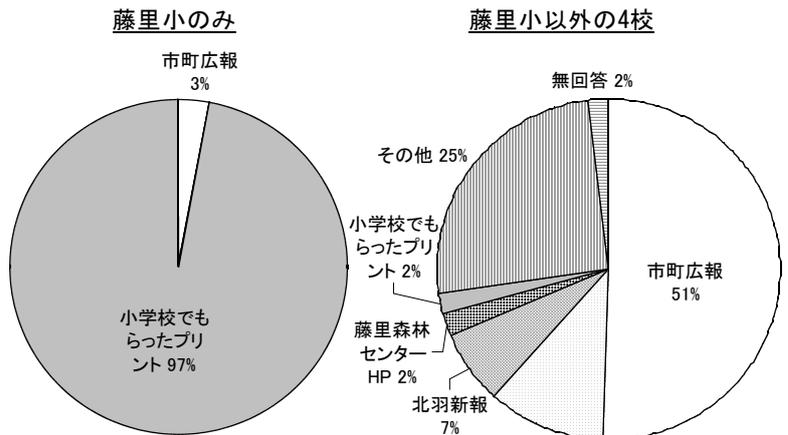


図3-2. 情報は何かから知りましたか

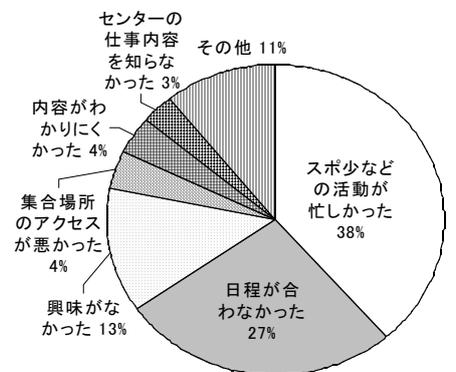


図3-3. 応募しなかった理由をお聞かせください

同伴」が14%でした。

[回数]については、「全1回」が47%、「全2回」が17%、「全3回」が5%でした。

(7) 自由記述

土日祝日でもスポーツ少年団が忙しく、参加したくても参加できないため、学校行事に組み込んで欲しいとの意見が非常に多くありました。

肯定的な意見として、「日程等の都合が合えば親も参加したい」、「すごく良い企画なので、是非、学校と協力して授業の一部としてやってもらいたい」等がありました。

有意義な意見として、「自然体験や環境保護等のメニューが多いので、他の団体と日程や募集を連携して欲しい」、「学校などで子どもたちがどんな体験活動を行っているか調査し、重複しないように独自の活動を考えるべき」等がありました。

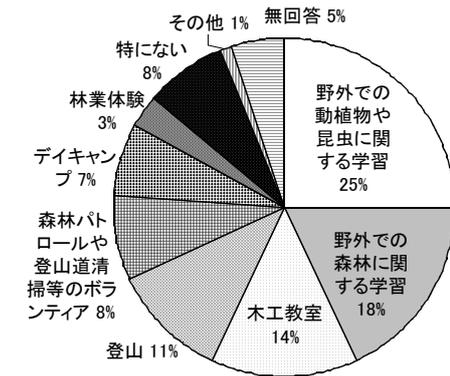


図3-4. どのようなイベントなら参加したいと思いますか

5 考察

(1) 『白神ジュニアフォレスター』の認知度について

認知度が低いことから募集方法の改良が必要です。直接プリントを配布した藤里小学校は認知度が高いことから、小学校を通じて募集する方法が有効です。

(2) 小学生を取り巻く現状について

子ども達は特にスポーツ少年団の活動が忙しく、平日はもちろん、土日祝日でも予定が埋まっていて、保護者や児童が応募したくてもできないという現状にあることがわかりました。日程の3回中2回が夏休み以外だったこと、回数が全3回だったことが日程が合わない主な原因となったと考えられます。

(3) 森林環境教育に対するニーズについて

アンケート配布時に各小学校の校長・教頭に聞き取りをした結果、特に遺産地域周辺の学校では、学校行事として既に白神山地や自然体験に関するカリキュラムが組まれている、地域の他の団体が類似のイベントを行っているという現状でした。すなわち、白神山地における自然体験等のイベントが飽和状態にあるといえます。反対に、自由記述欄には前述のように肯定的な意見もあり、このような事業に潜在需要がある程度存在することがわかりました。

以上から、応募がなかった原因として、①広く周知できずに潜在需要が喚起できず、②募集を知っても内容が需要と乖離しており、③需要に合致しても日程が障壁になり応募に至らなかったという3つのボトルネックが存在したと推測できます。しかし、逆に考えれば、募集方法、実施内容、日程等を改善すれば、十分に人が集まる余地があるということもわかりました。

6 今後の課題と展望

(1) 『白神ジュニアフォレスター』の改善点について

広報誌等に掲載するだけの受け身の姿勢を転換し、当センターから近隣の小学校にプリントの配布を依頼します。そのために、今回のアンケートを足がかりにして、今後そのような依頼を引き受けていただけるよう、普段から地道に学校との関係強化に取り組みます。

内容については、従来の要素を残しつつ、アンケートで要望の多かった野外学習の要素を取り入れ、魅力あるものとなるよう工夫します。

形式については、小学校やスポーツ少年団の関係者に行事日程等の聞き取り調査を行い、日程を調整します。さらに、実施回数や募集人数の変更に加え、わかりにくいという意見のあった『白神ジュニアフォレスター』という名称を改良します。子どものみではなく、家族との参加も可能であることを明確にします。学校の授業に組み込んでほしいとの意見が多かったことから、従来の『森林教室』に加えて、『白神ジュニアフォレスター』も提供できることを提案します。

これらの改善策を講じることにより、次年度は一人でも多くの子どもたちに参加してもらえよう取り組みたいと考えています。

(2) アンケートから見えてきたものについて

今回のアンケートを通じて、白神山地周辺に居住する小学生やその保護者の意識の一端を窺い知ることができました。

最近の傾向として、白神山地周辺のような自然に恵まれた地域に住む人々であっても、自然と直接触れあう機会が減り、自然体験や森林・林業への意識・関心が希薄になっています。アンケートの自由記述を見ると、「興味がなかった」、「森林センターの活動内容がわからない」、「フォレスターの意味がわからない」などの意見がありました。当センターは国の機関でありながら、地域の一部の方々からは認知されていない現状にあることを再認識させられました。

一方、「スポ少と重ならなければ参加したい」、「森林・林業の大切さを学ぶことは大事」、「子供達が山に親しみ、山のこと、樹木のことを知るの大切」等の肯定的な意見も相当数見受けられたことは明るい兆しです。そのような思いを吸い上げ、今後の事業に少しでも反映し、白神山地の自然環境を守り継いでいこうという気運が更に醸成されていくための場を提供していきたいと考えています。

(3) まとめ

今後、このアンケートを活用し、事業に目新しい体験を提供できるような独自の内容を取り入れつつ、他の機関や自然保護団体等との連携を深めることで地域との関わりを強化していき、「地域に貢献し地域に愛される藤里森林センター」として存在感を高めていきたいと思えます。

最後に、お忙しい中、アンケートにご協力いただいた藤里・二ツ井・八森・早口・山瀬小学校の関係各位に深く感謝申し上げます。